令和２年度　社会科実践・研究計画

部　員	○鈴木　聡，石井　史知

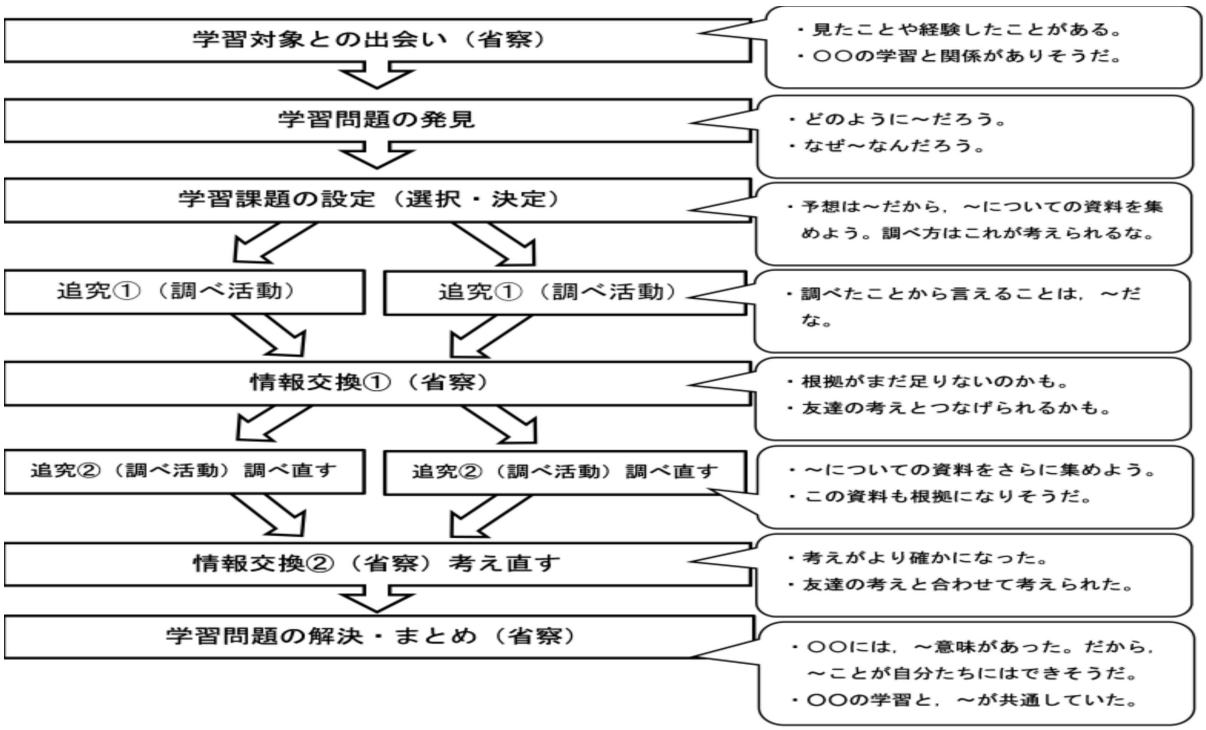
研究テーマ
社会的事象の「見方・考え方」を自覚的に用いて課題を追究し，社会と自分とのつながりを見いだす子どもを育む学び

１　研究テーマについて

昨年度，本校社会科部では「社会的事象の『見方・考え方』を自覚的に用いて課題を追究し，社会と自分とのつながりを見いだす子どもを育む学び」をテーマに実践を行ってきた。獲得した社会的事象に関する知識や「見方・考え方」を自覚するための省察の場を工夫したことにより，得られた知識を自分なりに整理したり，学習問題を解決するために働かせた「見方・考え方」を活用したりする姿が見られた。また，社会的事象の認識の段階を，①事実認識，②関係認識，③意味認識の３段階とし，これを踏まえて単元を構成することにより，子どもたちが新たな問いを見いだすことや「見方・考え方」を働かせる姿につなげることができた。その一方で，問題解決の見通しをもって仲間と協働的に追究するための単元構成の工夫や，活用した「見方・考え方」が適切であるかを見つめ直す省察の場の工夫については課題が残った。

こうした成果と課題を踏まえ，今年度の研究テーマを昨年度から継続し，実践・研究を進めていく。「社会的事象の『見方・考え方』を自覚的に用いて課題を追究し」とは，社会的事象を捉えるために具体化された視点に着目し，追究に適した解決方法を選択・決定して，学習問題を主体的に追究し，解決することである。また，「社会と自分とのつながりを見いだす」とは，調べ活動や仲間との協働的な省察を通して，地域社会の一員，将来を担う国民としての視点を踏まえ，社会的事象について自分なりに意味付けし，自分たちにできることや社会全体で取り組むべきことを構想することである。

そこで今年度は，問題解決の見通しをもち，社会的事象について仲間と協働的に追究するための「選択・決定」を位置付けて単元構成を工夫すること，さらに，社会的事象についての認識を深め，自分なりに意味付けることに結び付く省察の場を工夫することで，研究主題の「自律した学習者」を目指したい。また，社会科における自律した学習者を育てる学習のプロセスを以下のように示す。



社会科　自律した学習者を育てる学習のプロセス

また，社会科における「学びをつなぎ，資質・能力を高めていく子どもの姿」を次のように捉え，具現化を目指していく。

・社会的事象の「見方・考え方」を自覚的に働かせながら，社会的事象の特色や相互の関連，意味を考えている姿
・社会的事象を複数の立場や意見から捉え，自分なりに意味付けている姿
・地域社会の一員，将来を担う国民としての視点を踏まえ，自分たちにできることや社会全体で取り組むべきことを構想している姿

2 研究の重点

(1) 問題解決の見通しをもち，社会的事象について仲間と協働的に追究するための「選択・決定」を位置付けた単元構成の工夫

学びの連続性を自覚し，学習問題の解決に見通しをもち，仲間と協働的に追究することができるように，「選択・決定」する活動を単元の中に意図的に位置付ける。例えば，大きな「選択・決定」の場として，学習問題を解決するために，追究していく学習課題を設定する場を設ける。本校社会科部では，子どもの気付きから発生するものを学習問題，子どもの予想に基づく追究するものを学習課題と捉えている。学習課題を設定する際，学習問題を追究する上で妥当であるか吟味するよう促す。さらに，複数の学習課題の中から，子ども自身が選択し，一人一人がそれぞれ調べたり考察したりする複線型の展開が考えられる。このことにより，見通しをもち，自分の予想に基づいて学びを進めることで，意欲的に調べたり考察したりする姿が期待できる。また，学習問題の答えを見いだすためには，複数の学習課題の追究が必要であるため，仲間との情報交換に必然性が生じる。これらのことを通して，単元終末の学習問題の答えを自分なりに見いだす活動において，自他の学びを比較・関連付けたり総合したりして考えることにより，仲間と協働的に省察するよさを実感し，次の学びへの展望を抱く姿を期待したい。

(2) 社会的事象についての認識の深め，自分なりに意味付けることに結び付くための省察の場の工夫

学習問題を追究・解決する過程の質を高め，社会的事象の特色や意味についての認識を深め，自分なりに意味付けることができるように，省察の場を意図的に位置付ける。さらに，学習問題を追究・解決する中で，自分なりの社会的事象の特色や意味についての捉え，それを支える根拠や理由が妥当であるのかを見つめ直そうとする動機付けとなるよう，様々な集団で「対話」する活動を設定する。また，着目した視点や立場が同じ仲間との情報交換，着目した視点や立場が違う仲間との情報交換など，視点や立場を変えて「対話」することは，協働的な省察の場となる。このように異なる集団において，協働的に省察する場を通して，自他の考えを比較し，根拠や理由をより明確にする姿や，関連付けたり総合したりして考え，社会的事象の特色や意味について認識を深めていく姿につなげたい。

3 研究・研修計画

時　期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
1学期	・教科部会 ・附属中学校公開研究協議会（中止） ・附属小学校公開研究協議会（中止） ・社会科研修会（5/11） ・教材研究，授業実践 ・初等社会科講義①② ・秋田大学との連携	・実践・研究計画の立案 ・附属中学校との共同実践・研究 ・授業を通して重点事項の検証 ・校長先生による講話 ・授業を通して重点事項の検証 ・大学生への講義 ・社会科教育研究室の研究会
2学期	・第８校内研修会（8/27） ・教材研究，授業実践 ・初等社会科教育学Ｂ講義	・実践発表 ・授業を通して重点事項の検証 ・大学生への講義
3学期	・研究のまとめ執筆 ・教科部会	・実践・研究のまとめ ・実践・研究の方向性の確認

通年：年間指導計画及び資質・能力表の加除修正